

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

1月報

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数1966件、前月比18.7と急増していますが前年同月比は0.1で、例年に比べるとかなり少ない報告です。山鹿(報告数231、定点あたり77.0)が顕著です。続いて菊池(同351、同43.9)、有明(同306、同38.3)が続き県北に多いようです。これからの発生も増加が予想されますので例年同様に注意が必要と考えられます。年齢的には偏在はないようです。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数6578件(前月比1.29、前年比0.25)でした。前月比で増加した要因は、インフルエンザ(前月比18.7)です。また前年比が少ないのは、インフルエンザの報告が少ないためです。その他に他の疾患では特異な動きは少ないようです。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告数367件(前月比0.7、前年比1.3)と例年と同様の経過です。人吉90件(定点あたり30.0)、菊池97件(同19.4)に多いようです。年齢的には、0歳と1歳を中心としていますが、4歳でも17件の報告があります。
2. 咽頭結膜熱: 報告数91件(前月比0.6、前年比0.9)です。昨年10月からの増加傾向は止まったようです。この3年でも冬場にピークがあり、以前のように夏の病気というイメージが変わってきています。菊池(報告数35件・定点あたり7.0)、水俣(同7・同3.5)に多いようです。年齢も1歳を中心として、小児から幅広く報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数358件(前月比0.8、前年比1.1)です。推移は例年同様です。天草121件(定点当たり30.3)が突出しています。菊池42件(同8.4)、熊本116件(同7.3)に多いようですが、山鹿を除き県下から報告があります。4～6歳を中心としていますが、各年齢からも報告があります。
4. 感染性胃腸炎: 報告数2542件(前月比1.0、前年比1.0)と例年並みの推移です。ほとんどの地区で三桁の報告、少ない地区でも二桁の報告があります。山鹿288件(定点当たり144.0)、菊池433件(同86.6)、有明352件(同70.4)、八代277件(同69.3)に多いようです。全年齢から多くの報告があります。
5. 水痘: 報告数59件(前月比0.5、前年比0.3)と、昨年12月に108件の報告がありましたが、再び二桁の報告数へと推移しています。菊池15件(定点あたり3.0)、熊本15件(定点あたり0.9)、以外は、各地区一桁の報告です。全体的に減少してきていると考えますが、1歳でも10例報告があり、「1歳の誕生日接種」の継続的な啓蒙が必要でしょう。
6. 手足口病: 報告数20件(前月比0.3、前年比0.1)と、例年並に推移しています。天草10件(定点あたり2.5)、菊池7件(同1.4)に多いようです。報告の半数は1歳でした。
7. 伝染性紅斑: 報告数453件(前月比1.1、前年比56.6)です。昨年からの増加傾向がいまだに続きます。菊池132件(定点当たり26.4)、熊本175件(同10.9)から三桁の報告です。阿蘇を除く県下より報告があります。
8. 突発性発しん: 報告数120件(前月比0.9、前年比0.8)と、例年同様の推移です。
9. 百日咳: 菊池2件、八代1件の合計3件の報告でした。0歳児に1件、10～14歳・15歳～19歳に各々1件でした。
10. ヘルパンギーナ: 報告数14件(前月比0.5、前年比0.6)で、例年同様の推移です。天草8件(定点あたり

2.0)、菊池4件(同0.8)、熊本・宇城1件の報告です。

11. 流行性耳下腺炎: 報告数306件(前月比1.1、前年比3.3)と、昨年からの増加傾向は続いています。山鹿39件(定点当たり19.5)、有明66件(同13.2)、菊池63件(同12.6)と県北からの報告が多いようです。人吉からは21件(同13.2)でした。年齢は、3歳から5歳を中心とした流行であり予防可能な疾患であり積極的対策の早急な実施が必要と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎: 報告数 123 件(前月比 1.1、前年同月 4.9)と増加気味で、前年同月比では約 5 倍の発症です。地区別では熊本 102 件、菊池 7 件、八代 1 件、有明 9 件、天草 4 件の報告です。年齢別では 20～69 歳台に多発していますが、乳幼児の発症は減少しています。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数34件(前月比0.7、前年同月比0.5)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性9件、女性25件と女性に多く見られています。年齢別は、男性では20～29歳に5件と多く、女性は20～24歳に13件と多く見られています。地区別は、熊本が21件と多く、次いで八代4件、菊池、御船各3件、有明2件、宇城1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症: 報告数13件(前月比0.8、前年同月比0.8)で前月比・前年同月比とも減少しています。男女別は、男性3件、女性10件と女性に多く見られています。年齢別は、男性は25～29歳、45～49歳、55～59歳に、女性は25～70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が5件、八代4件、菊池3件、宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ: 報告数3件(前月比1.0、前年同月比1.5)で、前月比は同数でしたが、前年同月比は増加しています。男女別は、すべて男性でした。年齢別は、男性は0歳、20～24歳、40～44歳に各1件見られています。地区別は、八代、有明、宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症: 報告数16件(前月比1.0、前年同月比0.8)で、前月比では同数、前年同月比は減少しています。男女別は、男性13件、女性3件と男性に圧倒的に多く見られています。年齢別は、男性は20～24歳に6件、女性は15～24歳に見られています。地区別は、熊本が15件、宇城1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症: 報告数22件(前月比 1.0、前年同月比 1.2)でした。大きな変化はありません。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症: 報告数7件(前月比 1.0、前年同月比 1.0)でした。小児は0歳1名のみです。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症: 報告数0件(前年同月より検出なし)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数1件(前月+1、前年同月+1)でした。大きな変化はありません。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数4件(前月比 0.8、前年同月比 0.8)でした。大きな変化はありません。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数27件(前月比 0.9、前年同月比 3.0)でした。多い傾向が持続しています。水俣、人吉、熊本の順に定点あたりで多い傾向です。
4. クラミジア肺炎: 報告数2件(前月+2、前年同月+2)でした。久しぶりの報告です。熊本市からの報告です。
5. 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる): 報告数27件(前月比 1.4、前年同月比 27.0)でした。昨年より早く増加しています。熊本市に多くみられています。(定点あたり5.2)

届け出対象感染症

- 1類感染症 :報告はありませんでした。
- 2類感染症 :結核 :22件
- 3類感染症 :腸管出血性大腸菌感染症 : 1件
- 4類感染症 :A型肝炎 : 1件
 - つつが虫病 : 1件
 - レジオネラ症 : 2件
- 5類感染症 :アメーバ赤痢 : 1件
 - カルバペネム耐性腸内細菌感染症 : 1件
 - 後天性免疫不全症候群 : 1件
 - 侵襲性肺炎球菌感染症 : 3件
 - 破傷風 : 1件